

令和8年5月1日

教職員

各位

大学院生

医学獣医学総合研究科長

大学院特別セミナーの開催について（通知）

標記のことにつきまして、下記のとおり開催いたしますのでご出席ください。
なお、大学院生については、当日出欠の確認をしますのでご承知おきください。

記

日時：令和8年7月13日（月）17時00分～

場所：宮崎大学医学部講義実習棟3階 303教室

講師：今川 和彦
（東海大学総合農学研究所 所長）

演題：「ウシの妊娠はインターフェロン・タウを介することなく
成立しうるか？」

講演内容：インターフェロン・タウ（IFNT）は、反芻動物における母体の妊娠認識の主要な胎子由来シグナルとされ、ウシにおいて IFNT は子宮由来のプロスタグランジン $F_{2\alpha}$ （ $PGF_{2\alpha}$ ）による黄体退行を抑制することで妊娠が維持されると考えられてきた。
ところが最近、機能的な IFNT を欠く受胎産物を用いた研究で、着床前後に子宮内のインターフェロン誘導遺伝子群が著しく減弱しているにもかかわらず、一部の受容体において受胎産物の伸長および黄体機能の存続が認められたことが示された。
本講演では、この報告を慎重に検証し、体細胞核移植、多胚移植、サンプルサイズの制限、 $PGF_{2\alpha}$ のパルス性およびエストロゲン受容体 1 とオキシトシン受容体軸の測定の欠如などを指摘しつつ、IFNT の働きが弱まった際に早期妊娠を支えるルートの可能性についても言及する。